

版画工房アーティーが専門に制作するジクレー版画（デジタル版画）を切り口に、様々なアーティストや画廊にインタビュする本コーナー。今回は画家の島村信之さんに、「写実絵画の版画化」についてお話を伺ってきました。



「夢現つ」2017年 技法名…アーカイバル®

## 島村 信之 × Artie FINE ART WORKS

**アーティー** 島村さんとは2010年に鉛筆画家の篠田教夫さんの個展で、偶然お会いしてからの付き合いとなりました。その後ご縁があり、版画制作させて頂いております。版画と一口にいつても、その技法は多岐にわたります。そんな中でどうしてジクレー版画（デジタル版画）をお選びになったのでしょうか？

**島村** 私の場合は超細密画なので、通常の技法、例えばリトグラフや木版、シルクスクリーンでは、満足のいく表現は難しいだろうと思っていました。ジクレー版画もいくつか見えてはいましたが、いずれも品質面で満足いくものにはなかなか出会えませんでした。

**アーティー** その頃はちょうどジクレー版画の過渡期に当たる頃ですね。

**島村** はい。ですので、篠田さんの個展で、ジクレー版画を見た時は衝撃的でした。そのあと、箱根にある「玉村豊男ミュージアム」にも品質の良いジクレー版画が展示されていると耳にし、そちらにも足を運びました。一度目は一人で、二度目は銀座柳画廊の野呂社長と副社長をお連れして。

実際に質の良いジクレー版画を二つの場所で見、「超細密画を版画化するなら、ジクレー版画が最適だ」と確信しました。

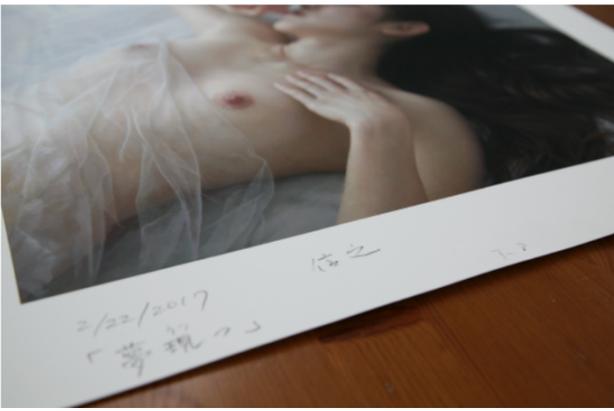
そのいずれの版画も制作されていたのがアーティーさんだったので。

**アーティー** 箱根に二度も行かれたとは驚きました。それからすぐに銀座柳画廊さんで出版となったのですか？

**島村** いえ、そこからの野呂社長の対応が慎重でした。かなりの時間を掛けてジクレー版画を出版することのメリット・デメリットや評判を探ったようです。そして最終的に、当時認知度が低いジクレー版画ではあるが、「画廊が版權管理をきちんと行うこと」「専門の版画工房が制作すること」この2点の条件が揃えば、原画の価値を上げる可能性も大いにあると、出版に踏み切ってくださいました。

作家として野呂社長の慎重な対応を信頼していますし、私としても、出版後は自信をもって人に勧めることができます。

**アーティー** 色校正の際には実際に工房に来て頂きましたよね。原画の横に印刷



作家サイン・校正日・タイトルが入り、サンプルとして工房で保管される。

りを並べて、その場で色校正を行っていただきました。制作してみてもいかがでしたか？

**島村** 以前描いた作品をもう一度作り直す感覚があり、とても新鮮に感じました。

油絵で描いた原画と、インクの吹き付けによるジクレー版画では当然紙も材料も異なります。

版画独自のアプローチで「新たなアートを工房と一緒に作り上げていく」。そのプロセスがとても刺激になりました。

**アーティー** 私どもは原画をお預かりしてから、まず原画に色を合わせます。でもおっしゃる通り、材料が違いますから色が合っているだけでは軽い仕上がりになってしまいます。なので、いったん原画から離れて版画独自の「Grow（輝き）」を発する取り組みをします。そして、自分の中で満足できる状態になったら作家さんをお呼びします。

そこからは、作家さんと共に色校正をしていくわけですが、その過程がこの仕事の醍醐味ともいえる部分です。特に島村さんのアプローチは大胆かつユニークで毎回非常に刺激になります。「全体的にイエローをグレースしてみようか」「思い切った背景をもっと後ろに下げようか」などの要望に驚かされますが、やってみると魔力のように作品が立ち上がってくる。

**島村** 気づいたことを言うだけなら、日ごろ原画を描く上で、自身の中で行っていることなので慣れていきます。しかし工房側は的確にそれらを表現するのが難しいですね。



2011年よりスタートした版画出版は6作目へ。昨年も新作が出版された。

あと、版画を作ってみて作家にとつての副産物がありました。それは作品が私の手元に残ることです。精魂かけて描いた原画は、購入者の手に渡ってしまうと作家には何も残りません。

しかし、版画出版の際、銀座柳画廊の野呂社長の計らいで\*AP(\*アーティストプロフィール作家保存用)を頂けました。これは私にとりまして大変ありがたいことでした。

**アーティー** なるほど。それほどまでの強い原画への思い入れが、版画制作へ向かうエネルギー源となっていくんですね。

本日はどうもありがとうございました！

(1月・版画工房アーティーにて)

### P R O F I L E

#### 版画工房アーティー

美術専門の版画印刷を扱う「版画工房アーティー」。代表の加藤泉は1987年に米ロサンゼルスでシルクスクリン工房を設立。12年間アメリカンアートの制作に携わる。2001年に帰国後、東京に「版画工房アーティー」を設立。アーティー独自のジクレー版画「アーカイバル®」を商標登録。版画を原画と同等に扱い、作家と工房が相互に意見交換することで、互いの想像力の一歩先の表現力を目指している。制作している版画の8割以上に、モデリングペーパースト、エアブラシなどの特殊効果を施し、一般的な「版画」の概念を超える、斬新な表現に果敢に挑戦しつづけている。

東京都港区六本木 7-21-22 セイコー六本木ビル 4F  
(国立新美術館正門 徒歩1分)

営業時間：平日9時～17時30分 定休日：土日祝日

Tel : 03-6721-1850 E-mail : info@artie.co.jp Web : https://artie.co.jp

#### 島村 信之 (しまむら・のぶゆき)

1965年埼玉県生まれ。91年武蔵野美術大学大学院修了。洋画においてトップクラスの人気を誇る島村信之氏。輝く肌や光の表現方法はもちろんのこと、近年では昆虫、なかでも甲殻類などの徹底した写実表現でも異彩を放っている。

【取り扱い画廊】

画廊大千、銀座柳画廊、相模屋美術店、春風洞画廊、Gallery Suchi

【展覧会】

- ・第3回 私の代表作展 (開催中～2020年11月中旬・ホキ美術館)
- ・「Small Collection by Gallery Suchi」(開催中～5/6・ホキ美術館ギャラリー4)
- ・金沢美術倶楽部100周年記念入札会 (4/29～5/15・金沢美術倶楽部)